

リーブラ便り

2011年7月号 VOL. 26



リーブラのマークは、「男女平等」の願いをこめた「てんびん座（リーブラ）」をモチーフにしています。

目次

- 1.男女共同参画週間記念フォーラム2011を終えて
 - 2.男女共同参画週間記念フォーラム2011講座・展示報告
 - 3.運営協議会
 - 4.リーブラ相談室
 - 5.フォーラムを終えて リーブラより
- ★別紙 7月の新着図書ご紹介



主講演講師の落合恵子さん



準備中の企画運営委員

特集!

男女共同参画週間記念フォーラム2011 “私”がひらく現在・未来

ひとひと 「女と男 しあわせへの近道はここから」

2011年6月18日・19日 男女共同参画週間記念フォーラム2011が行われました。
企画者の皆さんにフォーラムをふりかえりコメントをご紹介します。

1. 男女共同参画週間記念フォーラム2011を終えて

今年のフォーラムは6月18、19日の2日間、利用者とリーブラと区が協働で約半年かけて準備し積極的な企画で開催されました。2日間で述べ428名の参加で昨年よりプラスの人数の参加者でした。

今年は新しい切り口の取り組みや企画が並びました。ポスターやパンフレットに使われた押し花のデザイン画は、一般団体の雅象彩絵高輪支部さんが港区の花「薔薇」を使って、フォーラムのテーマ「“私”がひらく現在・未来」と今年の切り口（女と男しあわせへの近道はここから）をイメージして原画を作製し、ポスターに使われました。原画はリーブラに寄付されたそうですのでリーブラに立ち寄ったときに見てください。

主講演は落合恵子さんの「みんなで生き延びるために」。落合さんの人間性あふれる声と深い趣旨にとんだお話で、3月11日以後の震災と福島原発の事故を受けて、放射能と共に生きることを選択せざるを得ない私たちの暮らし、生き延びるためにはこれ以上の放射能汚染の危機から身を守るために脱原発の道が必要だと述べられ、「さよなら原発」の道を選択する積極的な活動と、もろもろを受入れて前向きな姿勢を保つために自分の心と体をいつくしみながら人と人がつながることが大切と述べられました。

企画は講座ワークショップが8企画、展示が4企画。新しい世代を呼び込む方法として子供企画が実行委員会参画で取り組まれました。震災を受けての「私たちの危機管理」の展示アンケートには67名の参加があり、この声は港区の防災計画に生かせるよう提案します。被災地への支援金には3万円が集まり、もりおか女性センターに送付。「支援物資デリバリーケアプロジェクト」に使われます。

以上のような充実した2日間になりました。
来年に向けてまたアイデアを出し合ひましょう。



宮口委員長は「ガザ」の子どもたちが書いた絵画展示も企画

フォーラム2011実行委員長 宮口高枝



2. 男女共同参画週間記念フォーラム2011講座・展示報告



◇パパ! ママ! おじいちゃん! おばあちゃん! みんなで楽しく子育てしましょう!!

—新日本婦人の会 港支部— ファシリテーター：平野幸子さん

子育て中の若い世代と年配の世代が、それぞれの立場から子育てに関する思いや意見を出し合うワークショップを行いました。進行方法や、最初と途中で手遊びを入れるなど工夫して、参加者がリラックスして話しやすい雰囲気を作りました。年配の世代の参加が多く、どんな風に若い世代の子育てを応援したらよいのかについて、多くの意見が出されました。若い世代も年配の世代も、互いにもっと関わりを持ちたいと思っていることがわかりました。若い世代の参加者への宣伝や呼びかけが今後の課題です。

◇港区男女平等アシストプラン報告会 —港区人権・男女平等参画担当—

講評者：中澤智恵さん 平成22年度は2団体が港区の助成金を受け、その活動について報告しました。①「特定非営利活動法人 意思決定の場に女性を増やす」はワーク・ライフ・バランスで自分らしい働き方、生き方を実現するためのパンフレットを作成しました。

②「ヒューマンサービスセンターwithパープルアイズ」はパープルを基本に、のれん、手ぬぐい、啓発カード等の作成や、各種行事への参加を通して、広くDV防止のための啓発活動を行いました。



◇主講演「みんなで生き延びるために 落合恵子さん」—フォーラム実行委員会—

3月11日以降、大きな変化の中に生きるたくさんの人々の言葉は、我々の感情を揺さぶり、会場は一人ひとりが真剣に自分と向き合うことを考える、静寂を伴った雰囲気でした。「未来を作り上げるのは、一人ひとりの責任である」ということ。「市民一人ひとりが行動を起こすこと」で「男女平等」も「安心安全な社会も実現する」という訴えは参加者に「人任せにせず、世の中を変えていく行動を取る!」という決意をもたらし、「真実を知り、学び、自分を、家族や、隣人を愛する」信念を強固にしました。

すばらしいメッセージを下された落合さんの講演ですが、20代・30代の若い参加者が少なかったことが、残念でした。

◇トラブルさけて賢く働こう! 働く女性のパート法 —日本トラウマ・サバイバーズ・ユニオン—

講師：大東聖子さん

平成20年に改正された「パートタイム労働法」について知識を得る講座を行いました。働く女性の意識の「ボトムアップ」につながりました。パートというと、家計を支えるための補足労働、あるいは正社員の補足と考えられがちですが、法の下、権利を持った労働者であることを知ってもらうための講座でした。参加者は少人数でしたが、集まってくれた人に対し、「改正パート法」が伝えられたこと、とても熱心に質問してくれた人がいたのは良かったです。反省点としては、集客数が少なかったこと、女性側からだけでなく、男性側からの話が聞けたらいいと思いました。例えば育児休業をしている男性、または女性の職域に進出した男性など。

◇心とからだの声に耳を傾けていますか? —NPO法人男女平等参画推進みなと(GEM)—

講師：三原路子さん

女性のからだについて、年代によって変わるホルモンバランスなどを学び、自分のからだところと上手に付き合っ、幸せを感じながら生きることを考え、参加者の意見交換の時間もつくりました。女性も男性もそれぞれを理解し合っ対等な関係の下に相手の自己決定を尊重し、生きていくことは男女平等社会形成にとって最も大切なことです。特に、家庭生活や仕事も多様化し、個人個人の心身への負担が共有しくくなっている現在、専門的な知識を持つ講師から学び、自己を振り返り他者の話を聴く機会は、多くの「気づき」を得る場になりました。

◇ダンス・ムーブメント・セラピー入門 —NPO法人ヒューマンサービスセンター—

講師：カムラ・アツコさん

自分自身の身体の奥から自然と出てくる動きをとおして、自分の内側のとらわれに気づき、開放するダンスムーブメントセラピーを体験するワークショップでした。日常の生活の中でストレスを抱えている女性たちが、自分のカラダを大事に扱うことで自分と他者へのいとおしさを確認し、表現することができました。メンバーの中のゆるやかなつながりが大変心地よい空間でした。「身体がほぐれて、なごやかな雰囲気も良かった」「すごく気持ちよかった」などの声があり、参加者の満足度も高かったです。

◇どうすればよいの 私のお墓「これからのお墓を考える」—ネットワークリーブラ港区婦人団体連絡会・港区消費者団体連絡会— 講師：長江曜子さん



現代は少子高齢社会で家族構成もさまざまな中、ジェンダー問題を考えつつみんなが納得のいくお墓の選び方を学び考えました。お墓は家族や周囲の人間関係でトラブルがなければ、自分で自分の好みの墓が選択できることなど、女性が自分一人だけでも作れることがわかりました。参加者は多く、実務的な話で、具体的なヒントに富んでおり、参加者の満足度は高かったです。質問の時間をもっととれたら良かったと思います。

◇学習と交流「労働者派遣」は現代の奴隷労働か?! —Create Peace of Puzzle—

講師：佐々木透さん

講師による労働法の労働者派遣法の成立過程の解説と問題点、実際の労働争議の状況と労働者を撮ったDVDの上映を行いました。就職活動中の大学生も参加し、今日の労働現場の実態を伝えることができました。男女が平等になるためには、お互いの経済的自立が必要であり、そのためには派遣労働を廃止するしかないことを学習できました。

◇合唱ワークショップ「歌は生きる力 そのⅡ」～女と男 共同の力で歌う「ポラーノの広場のうた」～
—歌のあつまり“風”— 講師：印牧真一郎さん

宮沢賢治・詩、林光・作曲の「ポラーノの広場のうた」を参加者全員でうたい、合唱に仕上げていきながら、「本当のしあわせ」が男女平等とも重なることを考えました。合唱を仕上げていく過程で、紙芝居や物語の背景を表わした地図などを使い、内容を深める工夫をしました。それにより、「ポラーノの広場のうた」の世界、誰もが平等で互いを認め合い、力を合わせて仲よく暮らしていける世界をイメージして、音に表わすことができました。



◇閉会式 うたう会 —みんなとピースサンデー実行委員会—

例年は関係者だけが集まり、ある意味形式化していた閉会式を、大きく変えた試みです。平和や愛の歌を、フォーラムの参加者が全員で歌い、手に手を取ってつながる場面もありました。歌のもつ力で、みんなの想いが形になった瞬間です。団体の皆さんには新しい歌への挑戦もお願いし、若い世代へのアピールを試みました。講座やワークショップだけでなく、気軽に参加できる試みとして、来年への発展を期待させる企画となりました。



◇『武士の娘』と『武士の家計簿』が現代の私達に教えてくれるもの
—日本トラウマ・サバイバーズ・ユニオン—

港区白金で亡くなった女性ジャーナリスト杉本鉞子の人生を、様々な資料を元に紹介した展示でした。身近な女性の社会参加の実績を伝えました。杉本鉞子の存在は一般的にはあまり知られていなかったことから、来場された方々は興味を持って資料を見たり、質問のやり取りをして、理解を深めたり、個々の思い出話や教育や社会の変化についての話題を通して、交流することができました。



◇『私たちはガザで生まれた』絵の展示と解説 —劣化ウラン廃絶みなとネットワーク—

解説：パレスチナ子どものキャンペーン

爆撃や包囲など、基本的な生活が脅かされる中で生きるガザの子どもたちが描いた絵を展示し、絵の背景にある状況や子どもたちの心情を解説してもらいました。東日本大震災を経験したことで、パレスチナ問題を身近に感じるようになったと、メッセージも多く寄せられました。男女平等社会は戦争をなくさなければ実現できないことを再認識しました。



◇男女平等の推進はだれにとってもしあわせへの近道！ —リーブラ・サポーターズ・クラブ—

田町駅東口に建設計画中の総合施設の完成予想全体図や、新たなリーブラの見取り図を掲示し、男女平等参画センターに求められる具体像を来場者とともに考え、今後の利用提案につなげるための展示企画。

展示物を見て感心する人や知らなかった人が多く、「駅からの道は?」「いろんな施設がどうやって一つのところに入るの?場所の区切りは?」など、具体的な疑問を持つ人、意見を述べる人等がいました。東日本大災などの影響で、現在港区では防災の視点で計画を見直しています。利用者への情報提供として役立ったと思います。

◇私たちの“危機管理” —フォーラム企画運営委員会—

2011年3月11日の東日本大震災に経験したこと、それ以降のこと、これからくる災害も含め、意識化するための展示とアンケートを実施。アンケートは67枚回収。予想以上に真摯な意見が多数寄せられました。高層ビルでの被害、放射能等の正しい情報、地域でのつながりを大事にする、女性の視点での避難所運営、脱原発など熱心に書かれており、配布用に用意した備品リスト、女性・子どものためのこころえカードなどが大方くなりました。市民が意見を表明できる場を女性センターで作れてよかったです。アンケートの内容はまとめて港区へ報告します。

◇子どものひろば 協力団体名：新日本婦人の会港支部、コール・みなと、みんなとピースサンデー実行委員会、慶應さんかく会、田町語ろう会、みなとマジック同好会、劣化ウラン廃絶みなとネットワーク

上記7団体の協力により、2日間多彩なプログラムが催されました。子どもだけでなく、大人の参加者も夢中になって楽しめる内容で、笑い声のあふれるスペースとなりました。子どもの参加者数は2日間で6名と少なかったですが、参加者や団体同士の交流の場となったことが大きな成果です。今後より広く子育て世代や子どもたちに参加していただける企画作りを課題としたいです。



3. 運営協議会

港区女性センター「リーブラ」を電車から眺めていたのは20年以上前。自分がリーブラの運営や行方にここまで深く関心を持ち、かわりを持つようになるとは、当時は想像だにできなかったものです。さまざまな行政の機関のなかで、男女共同参画施設ほど「市民参画」という取り組みが進んでいるところはないように思います。

フォーラム2011は終わったばかりですが、区民と区、そしてリーブラの三者が協働するのはフォーラムだけではなく、男女平等社会を作るために、三者が対等に知恵と汗を流すところがリーブラの運営協議会であり、その実現拠点の使命を持っているのがリーブラです。

リーブラでの事業が市民参画によって、より滑らかで効果的なものになるよう、微力ながらお手伝いしたいと思います。

運営協議会委員 深澤純子

平成23年度 第3回運営協議会

6月27日、運営協議会が開催されました。

【議題】

- (1)報告事項
 - ①5月の事業報告
 - ②フォーラム実施報告
- (2)協議事項
 - ①フェスティバルの運営に関して
 - ②共催事業について

リーブラでは6月18日・19日に、年間の2大事業の一つ、男女共同参画週間記念フォーラムが開催され無事終了し、引き続き2月に行うフェスティバルに向けて準備に入っています。

フェスティバルは昨年度の課題をふまえ、本年度も実行委員会形式を継続すること、委員会運営プロセス、運営組織・役割などについて、運営協議会にて合意がとれました。団体の皆様には詳細を7月以降、ご案内いたします。

4. リーブラ相談室

心のサポートルーム便り

内閣府が政府として初めて性暴力被害に対応した、今年2月～3月の無料電話相談「パープルダイヤル」によりますと、「1年以内の強姦・強制わいせつ」被害は540件ありました。また、そのうち57%が「加害者は顔見知り」という被害で、なかなか被害を訴えられずに心身に不調をきたす女性が多いことがわかりました。リーブラでは7月、「性暴力を防止するために 私たちにできること」をテーマに、リーブラ推進団体GEM主催によるパワーアップ事業の講演会と港区共催の写真展を開催し、性暴力根絶に力を入れて取り組んでいます。リーブラ相談室においても、身近な相談窓口として、関係機関と連携しながら、心理相談によるサポートをしています。

<開室曜日・開室時間>

火曜日 16:00～20:00
水曜日 10:00～16:00
金曜日 10:00～16:00
金曜日 18:00～21:00

03-3456-5771 (専用電話)

※面談は専用電話でご予約ください。
電話相談も受け付けています。

5. フォーラムを終えて リーブラより

2011年のフォーラムは、「区民の皆さんによる区民の皆さんのためのフォーラム」を目指しました。リーブラの視点から達成できたことを以下のように総括しました。

その1. 企画運営委員を中心にフォーラムのテーマとフォーラムが発信するメッセージを練り上げることができたこと。**その2.** テーマを具体化するイベント、講座の統一性を図るプロセス(講座の審査)を新たに実施したこと。**その3.** フォーラムに直接係る団体が新たに増えたこと。**その4.** 団体の協働が進んだこと。**その5.** フォーラムに参加した個人や団体のエンパワメントが達成できたこと。

一方で問題もあります。実行委員会は全推進団体により構成されるものですが、役割を担う団体が限られた団体になりつつあること。推進団体として、再度リーブラの活動への積極的参画を期待します。2つ目の問題は、子育て世代等、これまでセンターにアクセスの少ない世代を巻き込むことが十分できなかったということ。一朝一夕にはいかないこの問題は、日常の講座やイベントを通して継続した働きかけが必要な分野でもあり、常にフォーカスしていくことを確認しました。

最後に、講座等を主催した団体の皆様、皆様の経験を団体内にとどまらず、多くの人に共有し、男女共同参画を促進してください。期待しています。企画運営委員会の皆様、皆様のご尽力に深く感謝します。港区に真の「男女平等」が実現するようこれからも一緒に力を合わせていきましょう。そして、皆様に共感してくださる仲間をどんどん増やしていきましょう。リーブラを拠点に活動している皆様の「男女平等への想い」を全力でサポートしていきます。



男女平等参画センター「リーブラ」3～5階

発行元	港区立男女平等参画センター リーブラ
住所	〒108-0023 港区芝浦3-1-47
TEL	03-3456-4149
FAX	03-3456-1254
メールアドレス	libra@career-rise.co.jp
HP	http://www.minatolibra.jp/
施設利用時間	月～土曜日 9:00～21:30 日曜日 9:00～17:00 *祝日はその曜日に合わせての開館となります。
窓口受付時間	月～土曜日 9:00～20:00 日曜日 9:00～16:00

発行日:2011年7月15日